

# 土佐日記『帰京』定期テスト対策問題 | 現代語訳・反実仮想・和歌の頻出設問と解答

組 番 氏名

/100点

## 本文

京に入り立ちてうれし〔①〕。家に至りて、門に入るに、月明かければ、いとよくありさま見ゆ。聞きしよりもまして、言ふかひなくぞこぼれ破れたる。家に預けたりつる人の心も、荒れたるなりけり〔②〕。垣もなく、一つ家のやうなれば、望みて預かれるなり。さるは、便りごとに物も絶えず得させたり。今宵、「かかること。」と、声高にももの言はせず。いとはつらく見ゆれど、こころざしはせむとす。

さて、池めいてくぼまり、水つける所あり。ほとりに松もありき。五年六年のうちに、千年や過ぎにけむ〔③〕、片方はなくなりけり。いま生ひたるぞ交じれる。おほかたの、みな荒れにたれば、「あはれ。」とぞ人々言ふ。思ひ出でぬことなく、思ひ恋しきがうちに、この家にて生まれし女子の、もろともに帰らねば、いかがは悲しき〔④〕。船人もみな、子たかりてののしる〔⑤〕。かかるうちに、なほ悲しきにたへずして、ひそかに心知れる人と言へりける歌、

見し人の松の千年に見ましかば遠く悲しき別れせましや〔⑥〕

とぞ言へる。なほ飽かずやあらむ、またかくなむ。

生まれしも帰らぬものをわが宿に小松のあるを見るが悲しさ〔⑦〕

忘れがたく、くちをしきこと多かれど、え尽くさず。とまれかうまれ、とく破りてむ。

## 設問

1. 「京に入り立ちて」の「入り立つ」は、「入る」に「立つ」がそえられて意味を強めている。このように、二つの動詞が結びついて一語になったものを何というか答えなさい。
2. 傍線部①「うれし」を、ここでの内容がわかるように現代語訳しなさい。また、作者が「うれし」と感じた理由を簡潔に説明しなさい。
3. 傍線部①「うれし」の品詞名と活用の種類を答えなさい。
4. 傍線部②「家に預けたりつる人の心も、荒れたるなりけり」とは、どういうことか。「荒れ」が何と何にかかっているかに注意して説明しなさい。
5. 傍線部②「家に預けたりつる人」とは、具体的にどのような人物か。本文の内容（垣もなく一つ家のようになっていること、便りごとに品物を与えていたこと）をふまえて説明しなさい。
6. 「便りごとに物も絶えず得させたり」を現代語訳しなさい。
7. 「いとはつらく見ゆれど、こころざしはせむとす」から読み取れる作者の態度を、簡潔に説明しなさい。
8. 「ほとりに松もありき」の「き」の文法的意味（働き）を答えなさい。

9. 傍線部③「千年や過ぎにけむ」について、(1)「や」「けむ」の文法的意味(働き)をそれぞれ答えなさい。(2)「けむ」が連体形になっている理由を、文法用語を用いて説明しなさい。
10. 傍線部③「千年や過ぎにけむ」について、作者はなぜこのように述べたのか、実際の年数にふれて説明しなさい。
11. 傍線部④「この家にて生まれし女子の、もろともに帰らねば、いかがは悲しき」を現代語訳しなさい。
12. 傍線部④について、「いかがは悲しき」に用いられている表現上の特徴(修辞)を答え、そこから読み取れる作者の心情を説明しなさい。
13. 傍線部④「帰らねば」の「ね」は、どの助動詞が活用したものか。基本形(終止形)と活用形を答えなさい。
14. 「船人もみな、子たかりてののしる」という一文は、作者の悲しみを描くうえでどのような効果をもっているか。直前の内容との関係にふれて説明しなさい。
15. 傍線部⑤「ののしる」の、ここでの意味として最も適切なものを次から一つ選びなさい。  
ア 悪口を言う    イ 大声で騒ぐ    ウ 非難する    エ ふざけ合う
16. 傍線部⑥「見し人の松の千年に見ましかば遠く悲しき別れせましや」の和歌について、用いられている表現技法(「ましかば～まし」)の名称を答え、その意味(はたらき)も簡潔に説明しなさい。
17. 傍線部⑥の和歌の「見し人」とは誰を指すか答えなさい。また、「松」がこの歌の中でどのような意味をもつか説明しなさい。
18. 傍線部⑥の和歌の大意を、現代語で記しなさい。
19. 傍線部⑦「生まれしも帰らぬものをわが宿に小松のあるを見るが悲しさ」の和歌を現代語訳しなさい。
20. 傍線部⑦の和歌について、作者が「悲し」と感じた理由を、「小松」が象徴するものにふれて説明しなさい。また、第六首の歌と第七首の歌に共通して詠まれている作者の思いを、簡潔にまとめなさい。
21. 【文学史】『土佐日記』について、次の問いに答えなさい。(1) 作者名を漢字で答えなさい。(2) この作品は、ある文字を用いて書かれたことで「ある文学の祖」とされる。何の祖か答えなさい。(3) 作者は『古今和歌集』の編者の一人でもある。その『古今和歌集』に作者が書いた序文を何というか答えなさい。(4) 冒頭の一文「をとこもすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり」から読み取れる、作者の執筆上の工夫を簡潔に説明しなさい。